



美味しいイチゴ騒動

公益財団法人日本植物調節剤研究協会 評議員
日本農業株式会社 取締役兼上席執行役員市場開発本部長
東野 純明

私が住んでおります松戸は比較的田畑が残っている地域で、イチゴや梨などを栽培されている農家から直接実家などに果物を送り、とても美味しいと好評を得ています。

ところが、先日テレビを見ていたら、ピョンチャンで女子カーリングの選手が食べていたイチゴは韓国産だが、その元となったイチゴの苗は日本の育種家が韓国の方に頼み込まれて譲ったものが不法に拡散し、今や韓国オリジナル品種と信じられている旨の紹介がありました。農水省等から抗議したが、聞き入れて貰えなかったようです。

この件を少し調べてみると、愛媛のイチゴ農家で育種家の西田朝美さんが苦勞して育種された「レッドパール」というイチゴの品種を韓国の金重吉（キム・チョンギル）さんに第三者に渡す事の無いようにとの条件を付けて契約を結び、苗を渡したが、その後その苗は韓国中に拡散して一時期は市場の8割にまで広がったことや、更に別途日本から持ち込まれた「章姫（アキヒメ）」や「とちおとめ」等と掛け合わせて、「雪香（ソルヒャン）」「梅香（ソヒャン）」「錦香（クムヒャン）」等の品種として登録され、韓国では韓国オリジナル品種として認識されていることが判りました。また、これら韓国イチゴはアジア各国に積極的に輸出され、日本からの輸出の4倍位の売上があるようです。日本の優れた農作物の苗などが海外に流出して各地で競合している例は数多く報告されていますし、この様なニュースを聞くととても残念な気持ちになりますが、一方で日本の品種の素晴らしさや美味しさを再認識させられ、何だか誇らしい気持ちにもなります。

知的財産の保護は大切ですし、シッカリ権利の主張をしていく必要もありますが、近年の来日観光客、とりわけアジア諸国の皆さんが、実際に日本に来て日本の文化や食あるいはサービスを受けて日本に対する印象が変わった人達も大勢おられるようで、各国の政治的な思惑で日本批判を教え込んでいても、実際に自分で見聞きした経験はそれを見直す良い

きっかけになっているように思われます。

今後も大いに日本の素晴らしい農作物や料理を味わって貰い、また実際の日本人と接することで日本に対する誤解や偏見をなくして貰えれば良いと思いますし、民間の交流を増やして行くことの方が各国との誤解や偏見を正すのにより有効なのではないかと考えさせられます。

日本の農業生産の効率化や輸出の促進が種々検討されてきていますが、政府に頼るだけではなく、インバウンドや民間の交流を通じてお互いが理解しあえば、日本の農作物にも高い価値を感じて貰えると思いますし、実際そのようなファンも増えている気がします。食料自給率の向上も大切ですが、工夫し努力した日本の農作物の評価が向上し、輸出やインバウンド消費が大いに盛り上がって行って欲しいものだと思います。

そのために我々は有用な資材や農薬を見出す努力を継続していきますし、それらを活用して頂いた農作物の価値が向上していけば、非常に喜ばしいと思っています。